

令和6年度 佐賀学園高等学校 学校評価

1 学校教育目標

建学の精神(「産業界の第一線に貢献する人材の育成」)と校訓(「創造」「躍動」「貢献」)を尊び、いかなる時流においても生き抜く力を身につけさせる教育を実践する。

2 学校経営ビジョン

- ①県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。
- ②基本的生活習慣の定着及び周りの人への思いやりをもった心豊かな生徒の育成を目指す。
- ③生徒一人一人の学力・人間力を伸ばし、すべての生徒の進路保障を目指す。
- ④部活動の奨励と充実を図り、全国で活躍できる生徒の育成を目指す。

3 本年度の重点目標

60年以上にわたって築かれた伝統の継承と未来に向けた更なる学校の活性化に向け、職員・生徒一体となった学校づくりを目指す。「心一つにみんなで創る佐賀学園」をキャッチフレーズに、生徒一人ひとりの「人間力」を向上させるために次の3つの心を育てる。

- ・向上心：夢に向かって勉強や部活動に打ち込み、自己を高めていく心
- ・自律心：社会的マナー・敬愛等を養い、清く正しい生活をめざす心
- ・思いやりの心：人の心の痛みや苦しみを思いやれる心、ボランティアの心

【日々の取組み】

(授業)

- ・教職員が日々自己研鑽に努め、主体的に授業に参加できるようから授業・生徒を惹きつける授業を実践する。積極的に授業研究会等への参加、校内研究授業の実施により、更なる指導力の向上に努める。電子黒板やタブレットも効果的に活用し、新しい時代の教育の在るべき姿を模索する。

(毎朝のトレ)

(部活動)

- ・部活動加入率を高め、その充実・強化については主体性を育み、効果的な活動を通して更に力を注ぐ。文化部・運動部を含め、5部以上が県レベルで1度は優勝することを学校の目標とする。

(キャリアデザイン)

- ・主に総合的な探究の時間において、生徒一人ひとりが将来の自分の生き方をデザインできる力を育む。年間指導計画のもと、進路ガイダンス、大学・企業訪問、産業界で活躍する方の講話、地域課題解決など様々な実践に取り組む。

(人権・同和教育)

- ・人権・同和教育の充実を図り、差別を許さない心、障害のある人・在留外国人・LGBTなど様々な人々との共生を受け入れる心を育む。

(SNSに関する指導)

- ・スマートフォンなどによる不適切な情報発信、犯罪被害・加害防止のため、校内使用ルールの厳守や学年集会等での啓発指導、外部講師による講演等により、常に注意喚起する。

(学校開放講座・地域交流の実践)

- ・学校全体の取組として「佐学マルシェ」を位置付け、情報処理科・商業科の活動を中心として課題研究の紹介や販売実習など、地域の方々に参加できるよう実施する。

- ・ボランティア部に限らず、生徒会や部活動単位でも、積極的に地域へのボランティア活動を行う。

- ・吹奏楽部はコンクールだけでなく、地域や小中学校・特別支援学校に出向いて交流演奏を行う。

- ・学校以外の方々にもしっかりとされる、活躍する生徒を増やす。

4 前年度の成果と課題

- ・入学希望者層に向けた取り組みの強化…普通科の大学進学実績向上、情報処理・商業科の方向性検討
- ・効果的な教員研修による指導力の向上、ハラスメント防止教育の実施
- ・1人1台タブレットの更なる活用…Classi、スタディサプリの有効性の確認
- ・大学進学・就職に向けた指導体制のシステム化…小論文や面接等の担当者指定
- ・優しく思いやりのある心の育成…SNS問題等への理解と対応・予防教育の実施、人権尊重意識の醸成
- ・校内美化の徹底…清潔感のある「場・雰囲気」を整え、学びの環境を作る。
- ・部活動の更なる活躍と在り方の検討…科学的なコーチング、休養とのバランス
- ・業務効率化の推進…ペーパーレス化、デジタル採点の導入、業務内容の取捨選択

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営方針	学校経営方針	・本年度のキャッチフレーズ及び重点目標(「人間力の向上」)を生徒・保護者に周知することができたか。 ・本年度の重点目標にある3つの心を生徒に浸透させることができたか。 ・本年度の重点目標の「日々の取組み」について、職員がより取組み、成果を挙げているか。	・学校評価アンケートにより、本年度のキャッチフレーズ及び重点目標を「知っている」以上の生徒・保護者の割合を50%以上とする。 (昨年度 生徒21％、保護者25.8％) ・SNSを使った問題事例(他者への誹謗中傷)や人権侵害にある発言をするといった事実を発生させなかったか。 ・日々の取組みについて、担当分掌等が主体的に取組み、職員全体が中学校説明会やオープンスクールにおいて、十分にそれらをふまえて学校PRを行い、生徒募集に反映できたか。	・全校集会やSNS、ホームページ等を活用して生徒及び保護者に本年度のキャッチフレーズ、重点目標及び3つの心を伝える。 ・学校の教育活動をフンペーパーで示したグラウンドデザインを改訂し、生徒募集に活かす。 ・「日々の取組み」について、校長は担当分掌の部長や学年主任と協議し、進捗状況を確認する。 ・校長は授業視察を行い、それに基づいた職員との面談の機会を増やす。また、研究授業の実施や教科ごとの指導検討会等を開くよう促す。 ・校長は、部活動の取り組みを随時視察する。 ・校長は、外部機関や地域との連携を積極的に図り、担当分掌や学年が動きやすいように情報を収集し提供する。	B	・全校集会等を活用してキャッチフレーズを伝えて来たが、定着には至らず、保護者・生徒ともに認知度は4割を下回った。 ・職員における重点目標の理解度は概ね良好であったが、それを教育活動に反映させることができたかは疑問が残る。 ・グラウンドデザインは対外的な説明資料としては活用できたが、職員の意識統一では不十分な面があったため、次年度は、本校における教育活動の行動指針としてルーブリックを作成し、これを基にグラウンドデザイン等を作成することとした。 ・SNSに関する指導については減少したが、顕在化していない問題もあると考えられるため、予防的教養及びケアを積極的に実施しなければならない。
		・募集定員を確保できたか。 ・本校の魅力や特色を中学生、保護者及び中学校に正しく伝えられたか。 ・広報と募集が一体化し、パンフレット・HPの充実、PRビデオ・グラウンドデザインの作成と活用が図れたか。 ・オープンスクール及び佐学セミナーの参加人員は増えたか。 ・全職員が一体となって募集活動が行えたか。 ・特進コース及び進学コースの生徒を増やすことができたか。	・推薦105名、専願70名、併願80名を目標とし、定員255名を確保する。 ・本校を身近に感じてもらえるよう、従来のパンフレット、チラシ等に加えて、SNSを活用した情報発信を行う。 ・全職員による中学校訪問を行う。また、特進コースの教員と連携しながら塾訪問を行う。	・前同様に臨まないよう、事業の検証・効果の確認を行う。 ・募集関連事業の実行委員会に限らず、職員から斬新なアイデアを広く求める。 ・立地の良さ、進路・検定取得実績、生徒一人一人に寄り添った教育プログラム、活発な部活動の実績をアピールする。また、普通科の各コースの特色をアピールする。 ・部活動顧問と協力し、特技派学生、学力派学生を増やす。 ・国の就学支援金制度、本校の優遇制度などの充実したサポートについて周知する。 ・学校行事に組み込まれた佐学マルシェも本校のアピールとなるので、対策室としても活動に協力する。	A	・推薦、専願、併願合わせて263名の入学予定となり、募集定員を上回った。 ・前年度からオープンスクール参加者は214名の増加、佐学セミナー参加者は37名増加し、目標を達成することができた。 ・専願入学者数が伸び悩む中で、推薦入学者数を前年より17名を増やせたのは、部活動顧問の懸命な勧誘活動によるところが大きい。 ・説明会等で学力に課題があったり、不登校傾向や特性を持つ生徒に親身に指導していることが中学生職員に徐々に浸透していることも成果として出ている。 ・本校の強みは、①県下最大の情報処理科を有し、その生徒を受け入れて進路保障に結び付けていること、②佐賀県に隣接する立地条件をもつことであり、このことを重点に置いた広報活動を行う必要がある。また、進路指導部と連携してキャリア教育の取り組みを生徒・保護者にPRすることも今後の課題である。
		・県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。	・コミュニケーション能力の更なる向上を図る。 ・各自が担当業務の処理能力向上を図る。	・来校者や家電者の立場に立ち、正確かつ迅速な対応を心掛ける。 ・優先順位、時間管理を意識した業務遂行を実践する。 ・気持ちの良い挨拶の励行を継続する。	A	・お客様来校時や電話口での正確かつ迅速な対応や気持ちの良い挨拶も出来ており、要件のみの伝達に留まらず、プラスアルファの言葉かけも出ている。 ・担当業務を見直したことで業務処理スピードが低下したことは否めない。今年度の経験を生かし、各自が習熟度を向上させることにより処理能力向上に努めたい。
		・電子黒板やタブレットを効果的に活用した授業ができたか。 ・学習指導要領の改訂や、社会の変化に対応した教育の実践ができたか。 ・内容が豊富で、わかりやすい授業ができたか。 ・定期考査(中間・期末)の問題は充実したか。	・校内の研修会や佐賀県教育センターの専門講座や公開講座に参加し、指導力の向上を図る。 ・研究授業や公開授業を通して、授業の質の向上を図る。	・職員研修会を各校務分掌で企画する。 ・教育センター研修講座に3年間で1回以上参加する。 ・教員それぞれ、電子黒板、タブレットを活用した授業を意識して実践する。 ・各年度、研究授業を実施する。 ・学期当初の1週間を公開授業週間とし、授業参観をオープンにする。 ・各教科会で日々の実践を振り返り、授業改善につなげる。	B	・職員研修会を各分掌で企画することができた。 ・教育センター研修講座に積極的に参加することができた。 ・11月に公開授業週間を実施し、教科にこだわらず、授業参観をし、授業改善に役立てた。
教育活動	学力向上	・基礎知識と技能の習得が図られたか。 ・進路を見据えた学力が定着したか。	・「規律ある授業」の確立 ・「分かる授業」、「生徒を惹きつける授業」を展開する。 ・家庭学習を習慣化し、基礎学力を定着させる。 ・それぞれの進路に対応した個別指導を充実させる。	・学習規律を身に付けさせる。 ・電子黒板及びタブレットを有効に活用する。 ・各教科会を機能させ、「分かる授業」、「生徒を惹きつける授業」のための手立てを研究し、共通理解のもとで実践する。また、全職員が授業評価の達成率80%以上を目指す。 ・日常的に課題を課し、評価する。 ・生徒一人ひとりに寄り添った指導を行う。	B	・1トレ時間を中心に、タブレットを有効活用した視覚的に分かりやすい授業が増加した。 ・全職員が授業評価の項目ごとの達成率が80%以上を達成できなかったため、各教科会を積極的に開き、授業の改善点を研究し、実践する。
	進路指導	・各学年における進路ガイダンス等がキャリア教育に活かされ、進路意識が具体的に行動に反映されたか。 ・進路実現に必要な基礎学力がついたか。 ・生徒の覚悟ある進路実現に繋がったか。	・学年に応じた、多方面からのアプローチによる進路ガイダンス等計画、実施する。 ・受験に対応した学力の定着と校内学力判定テストや到達度テスト、基礎力診断テスト等による学習力の向上を図る。 ・就職内定率100%、国公立大学合格者アップを目指す。	・大学進学希望者に対する長期休業中のセミナーの開催や個別指導を実施する。 ・3年生に対する総休後の勉強会、夏季休業中の進学対策と就職対策の学習会や小論文・志望理由書、履歴書の書き方指導を行う。 ・学校説明会や企業説明会に指導者として積極的に参加し、上級学校や企業の研究を行い、進路指導部と学年間で進路情報を共有し、ミスマッチのない進路指導につなげる。 ・進路指導部と学年で連携し、進路講話を効果的に取り入れるなど、充実したキャリアデザインタイムを計画する。	B	・各学年の進路ガイダンスは、就職講座や講演、アクティブラーニング等、各学年の実態に応じて充実した内容で計画的に実施できた。 ・種々の志望に応じた指導のおかげで3年生の進路決定率が高かった。 ・大学進学希望者の増加に伴い、2年次からの大学受験のための学力の定着と小論文の対策 ・スタディサプリの活用に関して、個人の弱点を補強するための指導ができるよう、生徒の理解度を把握する必要がある。 ・教員、生徒ともに希望進路に向けた早期の取り組みが課題
	生徒指導	・交通ルール・マナーは守られているか。 ・公共利用マナーの意識向上に努めてめているか。 ・正しい制服着用はできているか。 ・思いやりの心を持ち、自分を大事にしているか。 ・正しく自己判断ができているか。	・いつでもどこでもマナーアップの意識を持つ。 ・「公共利用マナー」、「生徒を惹きつける授業」を展開する。 ・制服を着用し、基礎学力を定着させる。 ・SNSによるトラブルには充分に注意する。	・交通安全に対する意識向上と生命の大切さを認識させる。加害事故0を目指す。 ・生活習慣の向上を意識させる。 ・他者に対する思いやりの心を育む。 ・制服を正しく着用する。 ・SNSによるトラブルには充分に注意する。	A	・公共利用マナーの向上、他者を思いやる心の育成に力をついた。 ・「自転車マナーアップ」のため、自転車安全五則を基に、安全運転の啓発に努めた。 ・SNS利用についての更なる意識向上に努め、生徒への内面的指導を充実させた結果、SNSに関する指導件数は減少した。
	環境美化	・清掃が隔々まで行き届いているか。 ・ゴミの分別収集ができたか。 ・自ら清掃活動に参加しているか。	・清掃場所による格差をなくす。 ・各クラスでのゴミの分別を強化する。 ・校内美化意識を向上させる。	・美化コンクールを実施する。 ・ベントボットの分別を徹底する(ラベルを剥がし、キャップは別に回収) ・全長持物の時間を設ける。 ・清掃用具の不足を減らし、清掃する環境を整える。	B	・清掃活動やごみの分別は積極的に取り組んでいるが、一部の意識が低く徹底できなかった。環境美化コンクールを定期的に行い、清掃活動の意識づけが必要である。
	課外活動	・仲間と切磋琢磨し社会性や強い精神力を身に付け、人間性を高めることができたか。 ・学校の活性化につなげることができたか。	・部活動加入率70%を目指して、担任、副担任及び顧問との連携を密にし、各部活動の部員数を増加させる。 ・優勝旗5本を目指し、全国の舞台を経験できるように強化する。	・文武両道で実践できるように、部活動のみならず授業にも真剣に取り組ませる。 ・競技力の向上だけでなく、まろさ、人格形成にも重点を置く。 ・部活動の活躍や魅力を校外に発信する。	A	・部活動加入も伸びてきている。また、全国大会への出場権を獲得し、県内にとどまらず、全国の舞台への躍進も期待できる。 ・進路保障についても各部顧問が責任を果たしており、日頃からの授業への取り組みに対する指導が進路決定に繋がっていると考えられる。
	長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応	・学級担任・学年主任・教科担当者・管理職・カウンセラー・教育相談担当職員と保護者との連携を図り、生徒への対応が充分に行われ、学校又は教室への復帰がなされたか。 ・教育相談室登校の生徒への学習指導と適切な評価が行われたか。	・精神的安定が保たれ、生徒自身が学校・学級への関心を持ち、友人関係を築き、所属学級へ戻ることができる。 ・教育相談室での学習や学校行事に関心を持って取り組み、達成感を得る	・職員が一つのチームとして保護者と連携を図りながら生徒をサポートする。 ・カウンセリングを充実させ心の安定を図り、スムーズに所属学級に戻れるようにサポートする。 ・Q-Uを活用し、生徒が安心して過ごせる学級作りを行うためのサポートを行う。 ・発達障害等を抱える生徒への対応についての研修会を行う。 ・級担任及び教科担当者と連携を図り、教材の準備や個別指導を充実させ、学力の定着を図る。	B	・担任、学年との連携がとれ、生徒のサポートができた。残念ながら教室へ復帰した生徒は1名であったが、全員が学年を修了することができた。 ・SCを継続して行うことで、心の安定を図りながら学校生活を送ることができた生徒もいた。 ・Q-Uの活用はまだまだ十分とはいえない。研修の実施などの検討が必要 ・学習についてはスタディサプリを利用するなどして効果を上げていくべきと考える。
特定課題	マナー指導	・社会的マナーを身に付け、服装等を整えることによって、清く正しい生活をめざす心を養うことができたか。	・学校内外での立ち居振る舞いについて、TPOに応じた行動をとることができる。	・ホームルームや学年集会等を通じて継続的に講話を行うとともに、生徒会と連携したマナーアップ運動を展開する。 ・全職員による服装等の指導強化週間を設け、学校全体での取り組みであることを意識させる。	B	・服装面での指導は減少傾向にあるが、スマートフォンの使用で指導を受けるケースがあった。校内でのルールを再度啓発し、正しい利用スキルを習得させる。
	生徒会活動	・校内外の問題を自主的に考え行動し、社会性の向上を図れたか。	・学級活動や各種委員会活動を活発に行い、学校全体のマナーアップを図る。 ・生徒指導部職員とともに校則の見直しを協議する。	・生徒会での議論を増やし、関連分掌・学年・学級の垣根を越えて連携を図る。 ・生徒会主体の行事の事前準備、企画運営を通して組織の在り方を体験を通して学ぶ機会と	A	・生徒会に学校を動かしているという自覚が出てきた。今後は、組織としてもっとスムーズに各種委員会が動くよう取り組むことが重要である。
	キャリア教育・トレ	・トレの学習内容を理解させて、生徒に基礎学力を身につけさせることができたか。 ・キャリアデザインタイムを通じて、自分の将来について真剣に考え、個々の適性に合った進路選択や実現を目指した取り組みができたか。	・トレ及び到達度テスト・基礎力診断テストを活用して、GTZの値がD2ゾーン以上の学力に向上させることを目標とする。 ・生徒への定期的な面接や進路ガイダンス、諸検査を通じて自己の適性を知り、日常的教育活動の中で自己表現力や礼儀作法を身につけることを目標とする。 ・3年次の進路決定を目指した取り組みの際には種々にあった適切な面接を行い、卒業後の進路変更や早期離職につながらないことを目標と実地意識を向上させる。	・トレを通して、学力向上に直結する動画配信を行い、定着させた学習内容を常に精査する。 ・全職員が生徒に学習内容を定着するために予習を行い、より効果的なフォローアップが出来る体制づくりに取り組む。 ・確認テストや基礎力診断テストを分析しながら、長期休業中や放課後の学習会を通して、学力向上につなげる。 ・面接における質問内容や実施方法について、職員研修等を実施しながら、生徒への適切な指導や助言内容の充実を図る。	B	・到達度テストは採点・結果の提供が速く、運動課題で生徒それぞれの弱点に合った配信があるのは評価できる。結果を教員同士で分析する時間を設けることができなかったのは課題である。 ・基礎力診断テストについて、1年生のD3ゾーンの生徒は過半数でほとんど変化はなく、数学・英語のD3ゾーンの人数が多い。2年生は国語・数学のD3ゾーンの生徒が増えており、学力低下がみられるため、日々の学習について改善が必要である。

6 総合評価

- ・電子黒板及びタブレット端末を活用した授業は定着した。
- ・進学では、九州大学、鹿児島大学をはじめとする国公立大学へ合格、就職では、JR九州、光久製菓、トヨタ自動車等への内定を勝ち取ったことは評価できる。
- ・地域との連携については、今年度より「佐学マルシェ」は学校全体の行事として位置付けて実施したが、行事としての体制づくりに課題が残った。4年目を迎え、「立ち上げの段階」から「定着・発展の段階」へ進化させる必要がある。
- ・キャリア教育の面では、学年で取り組んだ「キャリア・デザイン・タイム」、進路指導部のガイダンスも充実してきたが、重複した内容もある等、進路指導部と学年の協働性に不十分な点が見られた。
- ・本校のPR材料の一つである部活動は、運動部・文化部を問わず、各種大会での活躍が見られ、ボランティア活動も積極的に行われる等、多面的な活躍が見られた。特にゲームクリエイター部は本校独自の部活動として著しい成長を見せしており、クリエイティブ活動や地域との連携・目覚ましい活躍を見せた。
- ・ホームページ上での個人情報掲載事故が発生し、組織としての情報管理体制に課題を残した。
- ・運動部において体罰事案が発生したことは、学校として重く受け止め、二度と同様事案が発生しないよう取り組みが必要である。

7 次年度への課題・改善策

- ・2023(令和5)年に創立100周年を迎え、これまで築かれた伝統を継承し、建学の精神を再確認しながら、これからの未来に向けた更なる学校の活性化に向け、職員・生徒一体となった学校づくりが必要である。これを踏まえ、次年度は以下の点を重点的に取り組む。
- ・本校における教育活動の指針となるルーブリックの作成
- ・適時適切な教員研修を実施し、ハラスメントの防止及び資質の向上を図る。
- ・1人1台タブレットを通じたスタディサプリ及びクラッシュの活用
- ・大学進学・就職に向けた小論文、指導担当者のシステム化
- ・いじめ問題の早期把握と対応、SNS問題に関する予防教育の実施
- ・人権を尊重する意識を醸成し、優しく思いやりのある心を涵養する。
- ・校内美化を徹底し、清潔感のある「場・雰囲気」をつくる。
- ・部活動を含めた課外活動を充実させ、生徒一人一人が活躍できる場をつくる。
- ・科学的なコーチング、休養とのバランス、指導時間の適正化等、部活動のあり方を検討する。
- ・新しい教務システムの導入を始めとする業務効率化の推進